

にしながお小学校だより

050-7102-9176 (平日のみ 電話受付: 8時30分～17時)



8月は平和について考えるとともに
夏休みをすごす月

9号 / 令和8年8月9日 / 児童数 336名

教育理念

いのちをまもり いのちをはぐくみ いのちをつなぐ

学校教育目標

ともに学び合い、自ら考え行動し、思いやりをもって、仲間とより良い授業を創造し続ける子どもの育成

めざす子ども像

1. 心豊かな子ども (自他を大切にする、思いやりのある子ども)

2. 深く考える子ども (自ら学び、考えて行動できる子ども)

3. 健康で明るい子ども (きまりや約束を守りよく遊び、困難なことも最後までやり抜くための体力・気力をもった子ども)

研究テーマ

読むって楽しい! 伝えるっておもしろい! ~説明文から広がる学びの力~

西長尾7つの力を礎に「自制心・忍耐力・向上心・自尊心・協調・受容・共感・相互理解」

長崎、広島に投下された原子爆弾について語り考え行動できる人に

さて、81年前の8月9日、広島に原子爆弾が投下された3日後、次は長崎の地に同じものが投下されました。当時、広島の被害や犠牲者だけでもその規模の大きさを把握するのに難しかったことでしょう。それを思うと長崎でも人類が経験したことの無い原子爆弾の被害があったことを想像すると、現地の惨状や人々の不安を考えるだけでも胸が詰まります。

今年も8月9日に長崎平和祈念式典が執り行われました。

平和祈念式典で、被爆者代表の本村チヨ子さんが読み上げた平和への誓いの中で「私は平和と命を守ること、命とは何よりも優先されるべきものだ」という内容に感銘を受けました。また、被爆81年を知る被爆者が一人もいなくなる時代を目前に控えても、尚、世界の争いが絶えない現状を踏まえ、且つ、肉親を亡くされた悲しみを背負い続けても今なお消えない苦しみの記憶を昔話にはしてほしくないと話す訴えを聞き、私たち人間の命の重みを感じる以上の争う意義とは何なのかを改めて突きつけられました。そして、「残された時間を、命の限り平和を叫び続けるとともに戦争が再び起こらないように祈りつづける」という言葉を受けて、今後も学校現場でできることを子ども達に、保護者に、地域に伝えたいと考えました。

鈴木長崎市長は、核兵器は世界に1万2千発以上が存在することを指摘しました。つまり、長崎、広島で失った命、心身に受けた深い傷がこれだけ起こる可能性があるということです。また鈴木長崎市長は、「長崎、広島への原爆投下は、人間が人間への核兵器使用という一線すら越えてしまう現実を突きつけた。」と鋭く言い切り、核があれば戦争を思い止まらせるという考えを持つ国がたくさんある現実疑問を呈されました。被爆体験者の言葉「平和の原点は、人間の痛みがわかる心を保つこと。」は、小学校でもとても大切にしていることです。上級生が下級生の困っていることを手伝ったり、困っていることに気づいて手を差し伸べたりする人間関係づくりは、学校生活の中でも当たり前ですが特に大事にしていることです。この経験が社会に出て引き継がれることを願うばかりです。

国際連合の中泉満副代表は、平和の手段への投資を「核兵器保持」ではなく、「対話、外交、協力」という手段に投資すべきだと強く訴えておられました。対話は本校でもここ数年、演劇や国語での授業で日々取り入れている内容であり、社会を生き抜く大きな手段と捉えています。

今後も、真に明るい未来をつくる社会を担う教育活動を皆様とつくりあげていきましょう。

【参考】

平和への誓い <https://www.nagasaki-np.co.jp/feature/peace-site/peace-vow/>

長崎 平和宣言 <https://www.city.nagasaki.lg.jp/page/4920.html>

長崎県 被爆81周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典慰霊の詞 <https://www.pref.nagasaki.jp/doc/51292.html>

首相官邸 長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典参列等 <https://www.kantei.go.jp/jp/105/statement/2026/0809nagasaki.html>

国際連合 https://www.unic.or.jp/news_press/messages_speeches/sg/54857/